

北海道浮魚ニュース

令和 8 (2026) 年度 15 号

2026 年 10 月 6 日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎第 2 回太平洋スルメイカ長期漁況予報発表される

9 月 30 日、水産研究・教育機構より第 2 回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした漁期後半 (10～12 月) の予報です。

なお、この予報は国立研究開発法人水産研究・教育機構と太平洋側道県の水産研究機関が参画し、水産研究・教育機構がとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>)

「我が国周辺の水産資源の評価 漁海況予報」 (<http://abchan.fra.go.jp/gk/>)

今後の見通し (2026 年 10～12 月)

対象魚種：スルメイカ

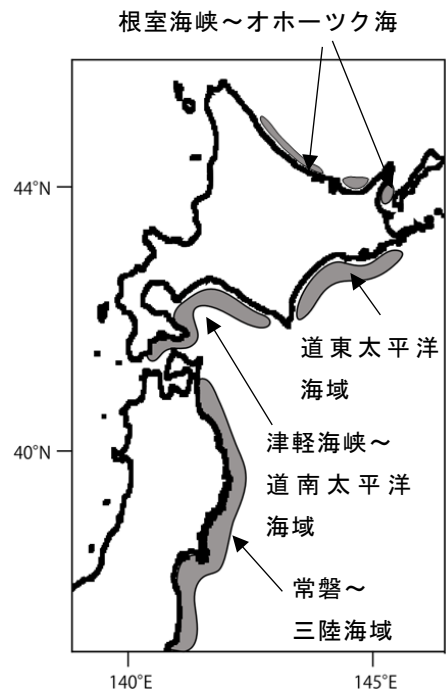
対象海域：太平洋 (常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域)、根室海峡～オホーツク海海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群 (2026 年級群)

- ・道東太平洋 (小型いか釣り、底びき網)：来遊量は前年を下回ると予測される。対象期間を通じて漁場となる。
- ・根室海峡～オホーツク海 (いか釣り、定置網、底びき網)：来遊量は前年を下回ると予測される。漁場形成は前年と同様に 11 月まで。
- ・津軽海峡～道南太平洋海域 (小型いか釣り、定置網)：来遊量は前年を下回ると予測される。対象期間を通じて漁場が形成される。
- ・常磐～三陸海域 (小型いか釣り、底びき網、定置網、まき網)：来遊量は前年並と予測される。対象期間を通じて漁場が形成される。

※文中の「前年」は 2025 年のことです。



・2026 年 8 月下旬～9 月上旬に実施した漁場一斉調査 (函館水試調査分は浮魚ニュース第 13 号参照) とイカ類南下期資源調査 (浮魚ニュース第 11 号参照) の結果、および 8 月 (一部 9 月を含む) の漁況経過を主要な情報として、太平洋における 10 月～12 月のスルメイカの来遊量が予測されました。

・いか釣り調査における平均 CPUE は三陸海域で前年を上回ったものの、道東および津軽海峡～道南の各海域や主要港での CPUE・水揚量は前年を下回り、調査全体の有漁点割合も低下しました。これらから、常磐～三陸海域への来遊量は全体として前年並と予測されるものの、道東太平洋海域および津軽海峡～道南太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測されました。

・根室海峡～オホーツク海については、北方四島周辺やオホーツク海沿岸の海表面水温が前

年並で推移し回遊条件は前年と変わらないものの、来遊の主体である太平洋沖合を北上する群の来遊量が前年を下回ると予想されることから、来遊量は前年を下回り、漁期は前年と同様に 11 月までとなると予測されました。

・魚体サイズ（外套背長）については、道東太平洋海域では最頻値が 12～13cm と前年（15cm）より小さく、三陸海域では 18～19cm と前年（13cm）より大型化した一方、津軽海峡～道南太平洋海域では漁獲数が少なく明瞭な最頻値が認められなかったため前年との比較ができない状態となっています。

（釧路水産試験場調査研究部 TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）

